

樹木の管理だより 4月号

みどり公園課

ポイント

- ・ツツジの剪定に適した時期は**5月～6月**
- ・5月の花が落ちた後の**2週間程度の期間**に剪定する

ツツジの種類

クメツツジ

- ・ヒラドツツジ、サツキツツジより早く花が咲く
- ・花色は紅色のものが多く、多くの品種がある
- ・剪定に耐えるので、刈込んで利用できる
- ・花を見るには日当たりの良い場所に植栽

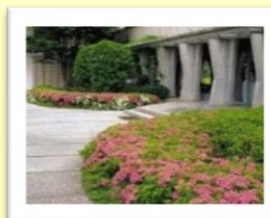


ヒラドツツジ

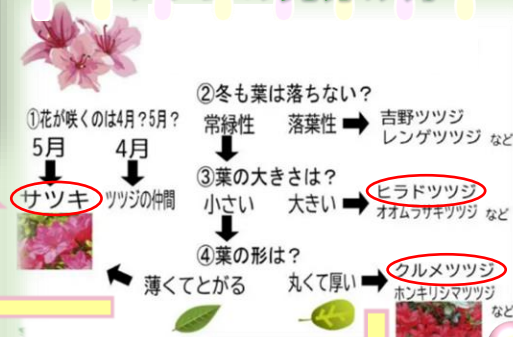
- ・花は4月から5月にかけてクメツツジに次いで咲く
- ・多くの品種があり、花の色も白、紫紅色、淡紅色と多彩
- ・樹勢が強く、剪定に耐えるので、街路の低木として利用できるが、大きくなるので見通しを確保して剪定等の管理を行う
- ・花を見るには日当たりのよい場所に植栽

サツキツツジ

- ・クメツツジ、ヒラドツツジに遅れて5月から6月に花が咲く
- ・花は紅色が多いが、白や絞りなどいろいろな品種がある
- ・また、葉が紅葉する品種もある
- ・花を見るには日当たりのよい場所に植栽
- ・細根の浅根性で、乾燥が続くとしおれやすいので、灌水に注意
- ・和名は旧暦の5月(さつき)に咲くことに由来



ツツジの見分け方



葉の大きさや形から
ツツジの種類を見分けることができます

はじめに

令和5年度から熊本市内の街路樹について、目標樹形の設定及び樹形の回復に向けた考え方や手法についてまとめた街路樹管理の指針として「[熊本市街路樹等維持管理に関するガイドライン](#)」を策定しました。

その中で、剪定の目的は、樹形の骨格づくり、樹冠の整形、混みすぎによる病虫害及び枯損枝の発生防止等であるとしています。

また、剪定の時期は、花芽分化の時期を考慮して剪定する必要があります。特に、熊本市の街路樹の低木の中でも、もっとも多いツツジについて紹介します。

ツツジの剪定が必要な理由

ツツジを健康に育てるうえで、剪定作業は欠かせません。剪定が必要な理由は以下の3点です。

- ・樹形が乱れる…剪定しないで放っておくと、勢いよく伸びた枝で樹形が乱れます
- ・風通しが悪くなる…込み合った枝で風通しが悪くなると湿気がこもって病害虫が発生しやすくなります
- ・栄養が行き渡らなくなる…不要な枝に栄養が取られれば新芽や花の付き方も悪くなります

ツツジは剪定をおこなって、**樹形や枝の間隔を整えてあげることが大切です**

剪定の時期

ツツジの開花時期は4月～5月頃ですが、花が咲き終わってすぐの6月～7月にはもう次の年の花芽を付け始めます。

せっかく開花を待っている花芽を切り落としてしまわないように、**5月の花が落ちた後の2週間程度の期間**を狙って剪定をおこないましょう。

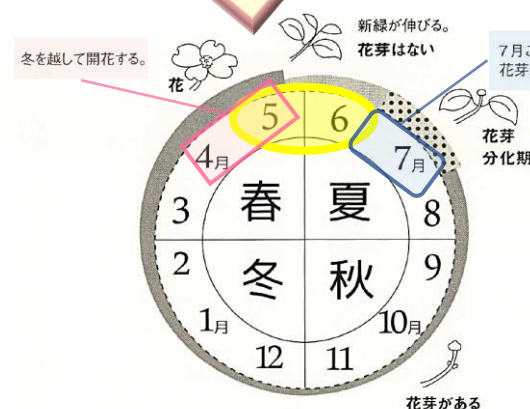
花芽は枝の先端にできる



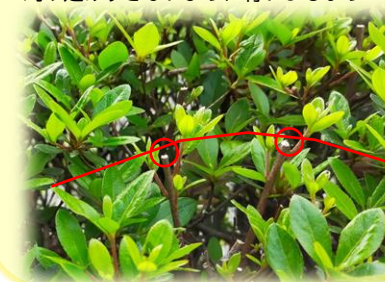
強剪定しすぎると花が咲かないばかりか枯れこむ場合もある



ツツジの剪定に適した時期は
5月～6月です



剪定位置は、前年剪定した枝先を目安に刈り込みすぎないように行いましょう



都市建設局 森の都推進部 みどり公園課
担当：田尻・濱崎
TEL：328-2409

樹木の管理だより 5月号

～キノコによる倒木の危険性について～

みどり公園課

ポイント

樹木の根株付近や幹にコフキタケ、ベッコウタケ、カワラタケ等のキノコが発生したら、**倒木の可能性**が高くなります。

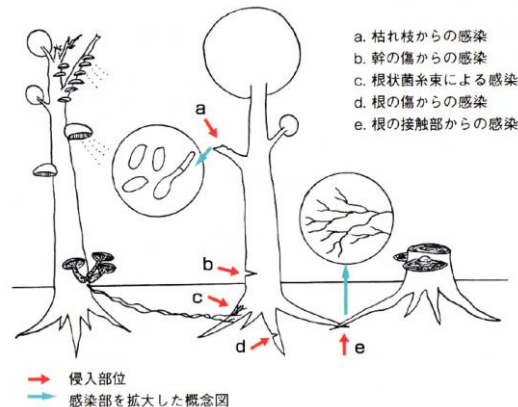
・パトロールの際は、**樹木の根株付近や幹のチェック**を行いましょう。

・キノコを見つけたら、**樹木医に相談**しましょう。

(みどり公園課に樹木医が在籍しています。)

キノコの感染方法

木材腐朽菌は、風や雨滴、動物の媒介などによって他の樹木に運ばれ、枯れ枝や幹、根の傷等から感染する。

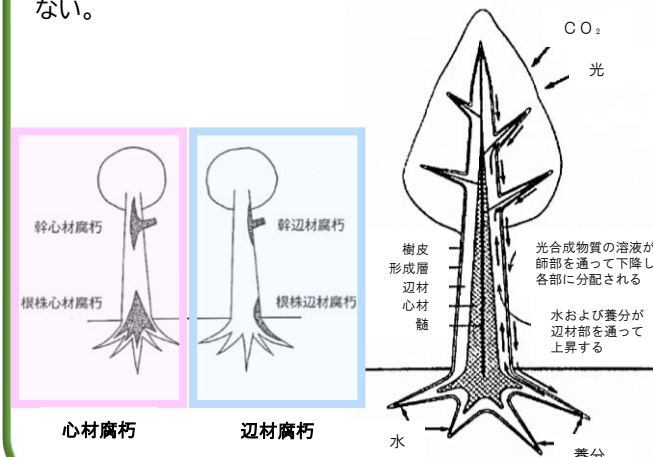


腐朽の発生する部位

樹木の木部は心材と辺材に区分される。腐朽のタイプも **心材部が腐る心材腐朽** **辺材部が腐る辺材腐朽** に分けられる。

生きている樹木は心材腐朽の被害が圧倒的に多く、辺材腐朽の被害は少ない。

枯死木、丸太、用材などでは辺材腐朽が多く、心材腐朽は少ない。



根っこが腐っていても樹木上部は生きている

生きている樹木は**心材腐朽**の被害が圧倒的に多いため、**樹木の中心から腐っていく**ことになり、この腐りの割合が増えていくと倒木を起こすことになる。外側の辺材や形成層が生きていることから、樹木上部は生きているため、根株の心材腐朽に関してはキノコが発生していない限り、診断や判定には限界がある。

キノコの発生が大きなポイントになる

キノコの種類

コフキタケ(コフキサルノコシカケ)



多年生の子実体

大量の胞子を飛散した子実体

多年生で硬くチョコレート色の傘肉を有し、大量の胞子の飛散により傘の表面や周囲が粉を吹いたようになる。さまざまな広葉樹に発生するが、まれにイチヨウやスギなどの針葉樹にも発生する。**幹の心材腐朽を起こし**、地際部から幹や枝までさまざまな部位に発生する。

カワラタケ



子実体は一年生、無柄、多数の傘が重なって形成され、傘面の色は変化に富み、灰色、黄茶色、褐色、黒色などの環紋を形成し、短毛が密生する。**木材腐朽力は大きく**、多種の広葉樹に発生する。

ベッコウタケ



被害木地際部に形成された子実体

幼菌

ベッコウタケ被害木の断面

ベッコウタケ被害による倒木

本菌は街路樹や庭園樹などさまざまな広葉樹に発生するが、**特にケヤキ、サクラ類に被害が多い**。本菌は根株の**心材腐朽を起こし**、被害が進むと腐朽は地上2m程度まで達する。樹種によっては形成層も侵される場合がある。

参考文献：緑化樹木腐朽病害ハンドブック 財団法人日本緑化センター

解説

幹からキノコが出てくるとことは、かなりの菌糸が木の体の中で充実していて、キノコを外部につくりだすエネルギーを蓄えていることになります。

シイタケで考えてくださればよく分かりますが、クヌギやコナラなどの木(ほだき)に、菌を植えつけ、その菌糸が「ほだき」から養分を吸収、分解して菌糸を伸ばし広がり、秋、あるいは翌春にはシイタケの子実体が多くでてきます。この収穫を3年くらい行くと「ほだき」は腐って崩れ落ち、形をとどめないくらいにポロポロになってしまいます。

つまり木材腐朽菌は我々の目の届かない木の内部を腐らせているわけですから、**キノコ(子実体)がでていたら要注意**です。

都市建設局 森の都推進部 みどり公園課
担当：田尻（樹木医）、濱崎
TEL：328-2409